

実務経験にある教員等による授業科目の一覧表

課程名	学科名	授業科目	授業時間数	実務経験にある教員による授業科目	シラパス	備考	
教育・社会福祉専門課程	こども未来本 (2年制)	施設実習	80	○	○		
		体験実習(認可)	40	○	○		
		保育実習	120	○	○		
		総時間数	240				

実務経験にある教員等による授業科目の一覧表

課程名	学科名	授業科目	授業時間数	実務経験にある教員による授業科目	シラパス	備考	
教育・社会福祉専門課程	こども未来本 (4年制)	施設実習	80	○	○		
		体験実習(認可)	40	○	○		
		保育実習	120	○	○		
		小学校学習支援	80	○	○		
		学活演習	80	○	○		
		総時間数	400				

授業科目名(担当者 金城 永太郎)	単位数	学習形態
施設実習	1単位(80時間)	実習

(授業のテーマ)

保育所以外の児童福祉施設を知り、児童福祉施設での保育士の役割への理解を深める

(授業の概要)

保育士が働くことができる施設について理解を深め、実際に施設での保育士の職務の役割を知る。また 福祉施設での子どもの様子を知る。

(授業計画)

児童福祉施設の役割を理解する

実習に向けての心構えを考える

施設実習の流れと諸注意を理解する

実習日誌の意義を知り、記録方法について学ぶ

実習先の施設と事前にオリエンテーションを行ない、実習先の施設の概要を知る

施設での流れや子ども達の生活や遊びの実態を知る

施設での保育士の配慮事項を知り、保育士という職務の理解を深める

実習終了後に感想や反省・気づきなど、実習の振り返りを行う

(参考書・参考資料)

実習ワーク

より深く理解できる施設実習

(学生に対する評価)

実習先施設の評価60%

実習日誌20%

実習事後指導への取り組み方20%

授業科目名(担当者 金城永太郎)	単位数	学習形態
体験実習(認可)	1単位(40時間)	実習

(授業のテーマ)

様々な保育や教育の現場を体験する

(授業の概要)

体験実習は選択制(認可外保育園 インターナショナル保育園 小学校)とし、希望する施設で体験実習を行なう

実習の形態は観察・体験を主体とし、1日8時間の5日間・計40時間とする

(授業計画)

各施設の役割を知る

実習に向けての心構えを理解する

実習の流れと目的や諸注意を理解する

実習感想簿の意義を知り、記録方法について学ぶ

実習先の施設と事前にオリエンテーションを行い、実習先の施設の概要を知る

保育や教育を観察したり、体験したりして、1日の流れや子ども達の生活や遊びの実態を知る

保育士や先生の配慮事項を知り、職務について理解を深める

実習終了後に感想や反省・気づきなど、実習の振り返りを行う

(参考書・参考資料)

実習ワーク

教育実習事前・事後指導(小学校)

講師配布資料

(学生に対する評価)

実習先施設の評価60%

実習感想簿20%

実習事後指導への取り組み方20%

授業科目名(担当者 金城 永太郎)	単位数	学習形態
保育実習	1単位(120時間)	実習

(授業のテーマ)

保育実習Ⅰで学んだことをふまえて、保育実習Ⅱでは幼児理解と保育士の専門職についてさらに深い学びと理解を目指す。

(授業の概要)

保育所に関する知識、実習の意義やあり方と幼児理解を学ぶ。実習後は自己評価をし、自己の課題を知り将来の保育士としての自覚を得る。

保育実習Ⅱは保育所において、基本的に1日8時間の15日間・計120時間とする。

(授業計画)

保育所の役割を理解する

乳幼児の最善の利益について学び、幼児理解に努め実践する

実習に向けての心構えを考える

保育実習の流れと諸注意を理解する

指導計画の作成について理解する

実習日誌の意義を知り、記録方法について学ぶ

実習先の保育所と事前にオリエンテーションを行ない、実習先の保育所の概要を知る

保育に参加し、保育の流れや乳幼児の生活や遊びの実態を知る

保育士の配慮事項を知り、保育士という専門職の理解を深める

実習終了後に感想や反省・気づきなど、実習の振り返りの授業を行う

(参考書・参考資料)

保育所保育指針

幼保連携型認定こども園教育・保育要領

実習ワーク

保育の計画と評価を学ぶ

(学生に対する評価)

実習先保育所からの評価60%

実習感想簿20%

事後指導への取り組み20%

授業科目名(担当者 喜屋武)	単位数	学習形態
小学校学習支援	2単位(80時間)	実習

授業のテーマ

小学校で授業に入り、学習支援をするとともに、小学校教員の児童に対する指導方法を見て学ぶ。小学校教員を目指す学生にとって貴重な経験になる実習である。

授業の概要

希望する小学校で学習支援を行う。実習の形態は観察・1日5時間の16日間・計80時間とする。

授業計画

小学校学習支援の役割を知る

実習に向けての心構えを理解する

実習の流れと目的や諸注意を理解する

実習先の小学校と事前にオリエンテーションを行い、実習先の小学校の概要を知る

小学校の授業に入り、学習支援をしたり、授業を観察したりして、指導方法や子ども達の実態を知る

小学校教員の職務について理解を深める

実習終了後に感想や反省・気づきなど、実習の振り返りを行う

参考書・参考資料

『教育実習事前・事後指導(小学校)』姫路大学教育学部通信教育課程

『教員をめざすための特別支援教育入門』大塚玲 編著 萌文書林

講師配布資料

学生に対する評価

実習先の評価30%

実習感想簿30%

実習事後指導への取り組み方40%

科目番号	S I B A科目	開講学期	通年	担当教員：初鹿野 修
科目名	学活演習	受講学年	こども未来 小教1～4年	
単位数	2（80時間）	登録人数		

1. 授業の概要

特別活動における「学級活動・話し合い活動」の演習として、学級会・ディベート・場面指導等を実践的に学ぶことを目的とする。

2. 到達目標

- 1) 話し合い活動の基本的な手順を知る
- 2) 教育現場で起きている諸問題についての話し合い活動ができる
- 3) 諸課題に対して、ディベートを行うことにより、物事を論理的に整理し、意見を言うことができるようにする
- 4) いろいろな場面指導を通して、学校現場での子ども・保護者・同僚等への対応を学ぶ

3. 授業の計画と内容

第1週	オリエンテーション・特別活動とは・学級活動の内容
第2週	小学校教員としての話し合い活動の具体的な内容
第3週	<p>①学級会活動：議題を決めての話し合い活動の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に起こりうる課題の設定 ・司会の学び ・意見を言うことの学び ・その他 <p>②テーマを決めてのディベート活動の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喫緊の課題や今考えられるテーマを決めて、ディベートを行う ・論理性のある意見を言うことができる ・ディベートの司会ができる ・ディベートの評価ができる ・その他 <p>③場面指導の自己の教育理念に沿った指導の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校で起こりうる場面指導を決める ・自分の教育理念に沿った指導ができるようにする ・学び合いからほかの学生からの学びを吸収する ・その他 <p>※上記の①②③を年間を通して計画に配置し、実践を通して学ぶ。 課題、テーマについては学生自らの発想、経験をもとに決めて実施する</p>
第4週	
第5週	
第6週	
第7週	
第8週	
第9週	
第10週	
第11週	
第12週	
第13週	
第14週	
第16週	
第18週	
第19週	
第20週	
第21週	
第22週	
第23週	
第24週	
第25週	
第26週	
第27週	
第28週	

4. テキスト

なし。課題に応じて必要なプリント準備

5. 成績評価の方法

学習状況の確認：授業への参加意欲・発言・記録用紙等

6. その他

なし